

屋久島近海の海洋プラスチックの現状

2021年6月14日

池田 裕二

NPO 法人みらいじま 根岸さま、スタッフ、参加者の皆さま

Zoom 懇親会ではお世話になりました。屋久島の池田です。海洋プラスチックについてリクエストを頂きましたので、少し紹介いたします。ご参考いただければ幸いです。

■屋久島近海の海洋プラスチックについて

屋久島の海は暖かい海流の「黒潮」の影響により、サンゴの多い熱帯的な生態系を有し、沖縄とよく似ています。冬でも水温は18度程度で、とても温暖です。魚1000種類、貝700種類と生物多様性に富む海です。

年間を通じて黒潮が東南アジアや台湾方面から海洋生物たちと、ゴミを運んできます。

それに加えて冬になると中国大陸側(日本海側、北西の方角)から強い季節風が吹き荒れ、中国や韓国から大量のゴミが海岸に漂着します。屋久島国立公園の口永良部島のある入江では2mくらいの高さのプラスチックゴミが積もります。

ゴミの種類は洗剤や食品系のプラスチック容器、発泡スチロールやサンダル、化繊衣類も多いのですが、一番厄介なのは漁具です。定置網などの漁網やロープ、ブイが一番多いです。これは台風で壊され流されるものもあるのですが、海洋不法投棄も深刻と考えられます。持続可能な漁業を目指すには、国際的に解決しなければいけない問題が多々あるのです。

南日本の日本海側はほぼ同じような状態で、長崎対馬、熊本、鹿児島、沖縄の日本海側の漂着ゴミは太平洋側の関東とは比べようもないほどひどい状況です。(太平洋側ではゴミの多くが漂流したままハワイ方面へ流れ出ています)

海岸からゴミが再び海に流れ出ないように私たちの仕事や、ボランティアの方々とも協力して毎年何トンものゴミを回収処分しますが、回収できるものは一部で、険しい崖地に漂着したものは回収不可能です。回収したゴミもほとんどがリサイクル不可能で、鹿児島本土に輸送されて焼却または埋設処分されます。

また処分費は原則的に自治体が負担しますので、財政が厳しい離島では処分に限界があります。有志団体が持ち込むゴミの処分費用は自己負担となります。屋久島では1tあたり数万円の処分費用がかかります。(参考 屋久島町の海洋ゴミ対策費用は年間約300万円、対馬が3億円)

このような理由ですべてのゴミを処分することができず、国の予算や補助金を使っても非常に厳しい状態です。

海水に浮く種類のプラスチックは漂流するうちに生活排水や工業排水の中の有毒化学物質とくっつきながら波に削られ紫外線でボロボロに細かく砕かれ、目に見えないくらい小さくなります。

これがマイクロプラスチックと言われるものです。それを食べ物と間違えてサンゴや魚たちが食べるため、生き物が死んでしまいます。魚介類を食べる私たち人間にも当然影響があります。水に沈むタイプ

のプラスチックは紫外線の影響を受けないかわりに深海でゆっくりと半永久的にマイクロプラスチックを出し続けます。このままで良いわけがありません。

海洋ごみは日本だけではなく国際的な問題です。特に各国の法整備とインフラ整備が重要で、まずプラスチック自体を減らすこと、ゴミをしっかりと分別して捨てること、ゴミをリサイクルすることを各国が徹底しなければいけません。東南アジアに行くと川にゴミを捨てるのが当たり前ですが、そういった習慣はすぐに止める必要があります。悲しいことに屋久島でも河川や海への不法投棄は後を絶ちません。

何より大事なのは人類が浪費をやめること。そして大国である中国や、ゴミ処分のインフラや環境教育が弱い東南アジアで SDGs を達成すべく世界で協力していくことも大切です。

私たち一人一人がまず何ができるのか、調べて考えて、行動できるようにしましょう。

・国立公園パークボランティアとの清掃活動

屋久島地域の海岸ゴミのようす

<http://kyushu.env.go.jp/blog/2019/10/post-616.html>

■屋久島のおさらい

鹿児島県の離島。

鹿児島港から南に約 100 キロに位置する人口約 12500 人の島。一周 100 キロほどの比較的大きい島で、九州最高峰宮ノ浦岳(1936m)を有する。

島の生活電力は水力発電 99 パーセント。

島の面積の約 4 割が国立公園で、その半分が世界遺産地域に指定されている。(1993 年指定)

樹齢 1000 年を超えるスギの天然林をはじめとする類い希な自然景観と、海岸から山頂部まで連続した自然植生が法律で保護されていることが人類の宝として認められている。21 世紀に入ってから新種の花が続々見つかった神秘の島。

海の一部も国立公園に指定されており北半球で一番のアカウミガメの産卵地として有名。最近では膨大な海洋漂着ゴミや、原始的な森の伐採が問題となっている。

■自己紹介(池田)

鹿児島県の屋久島で自然保護の仕事をしています。国立公園の管理として登山道の整備、山のトイレ問題、絶滅危惧種の保護、外来種問題、などに取り組んでいます。

みらいじまは 2008 年から 2010 年まで参加していました。

屋久島に来てからは山にも登るのでランの花について大学と共同で調べたり、地衣類といわれるコケを博物館と共同して研究しています。

増えすぎたヤクシカが森林生態系のバランスを崩しているため、狩猟免許を取得して森と人間がどうすればうまく共存できるかも勉強しているところです。

農的生活も取り入れ、現在数種類の野菜と卵は自給率 100 パーセント。

屋久島にいらっしゃるときはお気軽にご相談ください。

いつか余裕ができたならまた御蔵島に行きたいです。